

令和5年度
第3回朝日地域振興懇談会

会議録（概要）

期日：令和5年12月9日（土）

場所：朝日中央地区コミュニティセンター 大集会室

令和5年度 第3回 朝日地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 : 令和5年12月9日(土) 18時から20時まで
- 会 場 : 朝日中央コミュニティセンター 大集会室
- 出席委員 : 青澤豊一、難波金一、進藤 享、宮崎ちよ、伊藤ます子、大瀧博勝、渡部 巖、
菅原邦義、難波一之、難波志津香、今野めぐみ、伊藤比呂貴、伊藤由紀子 計13名
- 欠席委員 : 宮崎 正、清野吉喜
- 市側出席職員
 - 【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長、
総務企画課 上野地域まちづくり企画調整主査、渡部専門員
 - 【本所】企画部政策企画課 帯谷政策企画専門員、地域振興課 北山主任 計8名

一次 第一

1. 開 会

2. あいさつ

難波会長あいさつ

鶴見朝日庁舎支所長あいさつ

3. 報 告

- (1) 「かたくり温泉利活用トライアル事業」結果概要について

4. 協 議

- (1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画（最終案）について
- (2) 朝日地域振興計画（素案）について
- (3) その他

5. そ の 他

6. 閉 会

1. 開 会 18時（進行 総務企画課長）

2. あいさつ

難波会長あいさつ

鶴見朝日庁舎支所長あいさつ

3. 報 告

(1) 「かたくり温泉利活用トライアル事業」結果概要について

4. 協 議

会長 それでは協議 (1) について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 事務局から説明がありましたので、これらを踏まえて、皆様からの質問、意見を頂きたいと思っておりますので、ご発言をお願いします。

委員 質問だが、資料 3-1 総合計画後期基本計画（案）の P3 施策の成果指標について、「地域内経営耕地面積の確保」として今の実績値が 780 ヘクタールで成果指標が 820 ヘクタール以上とある。今後高齢化が進む中、国の施策も関わりがあると思うが耕作する農家を増やすということか。どのように考えて成果指標を設定したのか。

産業建設課長 施策の成果指標実績値の 780 ヘクタールは、中山間地域直接支払制度と多面的機能支払交付金を受けて管理している面積と、交付金を受けなくて管理している面積を合計した数値である。これに対し、目標値 820 ヘクタールは、中山間地域直接支払制度と多面的機能支払交付金の事務処理の広域化を計画しており、今まで取り組んでいない組織や取り組みを中断した組織から、国の交付金制度に取り組みたいとの意向も出ているため、新たに管理する農地の増加を考慮して算出した。現在の農業者数を大きく変えるのではなく、今、農業を行っている方から継続していただきたいと考えている。

委員 地域で協力して頑張って交付金活動に取り組むことになるが、取り組みたくとも高齢化で共同作業ができない地域が出てくるのではないかと。事務や会計処理の広域化だけでなく、横の連携を取り合い他の地域にも応援できるような、それぞれが協力できる仕組みも欲しい。そうなれば目標値に近づいて達成できると思う。

産業建設課長 現在、事務処理の広域化を予定しているが、共同作業の地域全体での協力体制構築について、ご意見として頂戴する。

委員 1 点目、前回も質問したが、文言の最後の推進する、支援する、めざす、強化を図るなど、言葉の使い分けについて聞きたい。2 点目、地域振興計画を考えるにあたり産業構造の現状が見えない。第一次産業、第二次産業、第三次産業の動向、可処分所得など施策の成果指標のような形で出してもらおうと考え方が分かりやすいと思う。自然条件は変わらないが、社会的条件が変わっているために新たな施策に取り組む必要が出てくるので産業構造をぜひ入れて欲しい。3 点目、ここで生まれ育ち

最後までいきいきとした生活を送ることを望んでいるが、今まで施策をやっても転居が増えている。どちらかと言うと若者世代が転居しているが分析をしていけば教えて欲しい。住んでいる人への支援はもちろんだが、人口動態が全ての施策の中心となり、人口減少が進むと活力がなくなる。

総務企画課長

1 点目、前回の地域振興懇談会でもご発言いただいているが、改めて整理させていただく。2 点目、産業構造のデータについて、総合計画の 7 章 地域の振興よりも地域振興計画の次回掲載となる統計データに人口・就業構造として整理させていただき、統計データも踏まえた現状分析としたい。3 点目、転居理由の分析データは持ち合わせていない。転居された方へのアンケートも検討したいが、若い年代の住民が転居する際は、子供の高校入学など進学に合わせたタイミングが多いという印象を持っている。それらの課題への対応として高校生通学費支援など新たな施策に取り組んではいるものの、物理的な距離や雪などの自然環境への対策が不足しているため、これが要因となって転居しているのではないかと推測している。朝日地域に住んでもらえるためにどんな取組が良いかについては、地域振興計画を進める上で委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。

委員

私は子育て世代で、1 番目が小 5 で 2 番目が保育園年長、3 番目が今年年少に入る。子供はいずれ高校生になるので、先程、話題に出た高校生通学費の支援は大変助かる。また、小 5 の息子が保育園年少の時、同学年が 23 人いたが、今は 18 人しかおらず 5 家族はどこかに行ったという現状がある。保育園年長の子供は 12 人しかいない。やはり、朝日地域で子供を育てたいと思える利点があれば離れにくくなると思う。私は以前砂川に住んでいて、家が古くなり新しく家を建てようと思、雪の大変さを十分感じているので、榎引や鶴岡に出ようか、雪の降らない所に行こうか迷った。ただ、なぜ朝日地域に残ったかという、朝日で育ったというのもあるし、雪は降るが風は少ない、土地も市内に比べると安く、経済的な理由が大きい。このようなことを売りにして人を呼び込む、または残ってもらう、大鳥や大網とか雪が特に多く降る所から地域内へ転居する人への手厚いサポートがあったら、榎引や鶴岡市街に転居することも少し避けられるのではと思っている。

委員

先日、朝日中学校で語り合いに参加させてもらった。朝日地域について話題にした時、中学生からは、将来一度は朝日地域の外に出たいが、いずれは朝日に帰ってきて朝日で商売など何かをしたいとの声があり、とてもうれしく感じた。他のチームでどんな意見が出たのか聞いてみたが、今の中学生は朝日の良さも良く知っていた。また、今後やってみたいことも意見として出してもらえた。朝日は条件の悪い所もあるが、スキー場で楽しめるとか良さも分かっている。朝日に住んでいる大人が、朝日の良い面や昔の行事、イベントのことを話すと中学生はとても感激していた。これまでは、コロナの関係で、朝日に今いる大人が中学生に対して教えることを含めて、話し合う世代間交流の機会が少なかったように思う。今後は、このような機会を増やして、朝日の良い所や大変なことを教えながら、どのように課題をクリアしていけるか、子供たちから意見を聞き取る場が必要だと感じている。落合集落には最近若い世帯が転入している。少し年齢層の高い世帯が他に転居している状態でもしかすると朝日に残ってくれる若者がいないという割には、結構住んでいるので

はないか。朝日に住む選択肢として、条件の良い空き家があればいいのかは分からないが、このような場所、空き家があることを発信できれば良いと、先程、委員のお話を聞いて思った。朝日に住むことが絶対に悪い部分だけではなく、冬も大変だが朝日の除雪はとてもきれいで、鶴岡から朝日に来る人も道路の除雪が上手で車の運転がしやすいと言われている。良い所は口に出して言い、大変なところは皆でカバーし合っていけないと難しいと思う。

委員 保育園のことについて、私には子供が3人いるので3人目から保育料無償化ということで大変助かった。2番目の子供を保育園に入れた時、保育料がとても高くてかなり大変な思いをした。若い人たちの子育てについて3人目を出産して育てるのは不安な面がとても多いと思う。1人目でも大変で2人目でさらに大変な思いをして、3人目は無理だとなる人も絶対いると思うし、経済的な面でも3人目を生み育てるのは難しいと思う。朝日地域で小さい子供を育てようとする人をしっかりサポートできたら良いと思う。

委員 鶴岡市の朝日地域とはなったが、朝日に住んで子育てする利点として金銭面での支援があれば良いのではないか。朝日から転居しないためには何かと考えた時、鶴岡市になってからは難しいと思うが、保育料やランドセルの贈呈など朝日地域で子育てする利点としては金銭面での支援が一番大きい。ある方の娘さんが鶴岡市以外に住んでいて、朝日にいつか帰ってくるとのことだが、現状で子供が保育園の支援を受けられるので、保育園を卒園してから戻るということだった。小学校や中学校に入る際に何か支援があるなど、朝日に残りたくなる支援があると良い。

昨日、西川町の道の駅に立ち寄り、温泉があつて、帰りに野菜や特産品も購入でき、飲食する所もある、このような場所が朝日にあれば良いと思った。朝日では大人数で入れる飲食店がないので、学校の保護者会でも集まれるようなスペースがあると良いと思う。例えば、三川の商店街もそうだが、そこに行くとなら全部用事が済む所が朝日にもあれば良い。子育て世代はコインランドリーを利用することが多いので、理想にはなるが、例えば温泉とコインランドリーと飲食できるような場所が1か所あるととても良い。

会長 今、非常に重要な意見として、若い世代、子育て世代の人達がどのように感じているのかという話が出ている。市の政策との関わりも出てくるため、朝日地域独自の施策として取り組むことは難しいと思うが、そのような地域独自の取組を出してもらえればと発言を聞いて思ったところである。

総務企画課長 貴重なご意見ではあるが、委員ご発言のとおり、地域独自の施策として取り組むには非常に難しい部分がある。高校生通学費支援については、市内の負担額を基本として年間6万円を超えた金額を補助する仕組みにしている。朝日地域から高校に通学する場合、市街地でも通学定期が6万円ほどかかるため、市街地と同程度の負担で通学できる形にすることで、いかにして距離的な要因など遠隔地としての差を埋めていくかが施策の中心だった。朝日地域独自で嵩上げする制度は難しいが、本日の皆様のご意見を踏まえて今後出来ることがないか考えていきたい。ご意見ありがとうございます。

委員 前回資料で「朝日地域の振興施策の全体像」をまとめていただいたが、見て非常に

- 分かりやすかった。今後、承認されてから出されるのか。
- 総務企画課長 最終案をお示しする際に、改めて体系づけも含めて整理してお示ししたい。
- 委員 具体的な事業の進捗管理はどのようにされているか。
- 総務企画課長 今回お示ししている地域振興計画を基にして、具体的な未来事業など事業の進捗は毎年度末に報告をさせていただいている。その他、地域振興計画に掲載の事業については、地域振興懇談会の際に状況をご説明している。
- 委員 提案になるが、「主な施策」を実行するための具体的な事業や取組は資料の囲みに記載されているが、例えば重要度、優先度、難易度などを高中低など3段階ぐらいで評価して、進捗管理が出来れば分かりやすいのではないか。特にそれを公表する必要もなくて、庁舎内での会議では進捗が見える形で管理されたら分かりやすくして良いと思う。
- 総務企画課長 ご意見ありがとうございます。内部資料という形にはなるかもしれないが、重点事業ではない個別事業は個々には評価を行っていないため、ご意見を参考にさせていただき、適切に事業進捗管理を行っていきたい。
- 委員 資料の中に山ぶどうや醸造用ぶどうなどの支援という言葉がたくさん出ていて非常にありがたい所だが、現在のぶどう部会のお話をさせていただきたい。今年は高温で品質があまり良くなかったが、今現在の情報としてぶどう生産者が4名離農してぶどう栽培をやめるとのこと。地域振興計画に「生産者に対する栽培支援を継続し所得向上につなげる」という文言があり、すごくありがたいが、実際には農協、普及センターで山ぶどうの栽培技術を指導する先生がいない。剪定講習会をしようとしても講師が見つからないため、以前の資料を使って確認している状況が続いている。部会の会長としても、今後の気象変動に伴う土壌改良のことなど教えていただきたいと言ったとしても教える方がいない。農協からもそのように言われている。部会としてはどうして良いか分からず、現在山ぶどう栽培に取り組んでいる農家の方達が70代で10年後に栽培しているかと考えると、現在の山ぶどう部会は危機的な状況にある。今、取り組まなければいけないことは、山ぶどうの生産者を増やすということと、栽培支援として技術向上に繋がる先生を呼んでいただきたいこと、生産調整が入っているために所得向上につながっていないということ。ふるさと納税返礼品での売り上げが向上していることは知っているが、JAから生産者への還元はない。JAには1円でも高くして欲しいと交渉しても、ぶどうの余剰があるため上げてくれない。これでは生産意欲もなくなり、年齢とともに、このような状況だったらぶどう栽培をやめようとなって離農が増える。悪循環に陥っている。市でもこのような現状を頭に入れた上での支援をしていただきたい。
- 産業建設課長 朝日地域の特産品は月山ワインであり、鶴岡市を代表する特産品であると認識している。これまで、山ぶどうの活用については、まちづくり未来事業として地域独自での支援を行ってきた。ぶどう部会の活動で勉強会をされていることは承知していたが、講師不在の状態で行っていたことは存じ上げていなかった。講師派遣についてはJAとも相談し、まずは圃場の現場を見ていただき、現地できちんと指導していただける人材を市も一緒になって探していきたい。
- 委員 昨日、集落の寄り合いで16世帯中8人しか来なかったが、高齢で具合の悪い人が

会長

いたり、若い人がいるが後ろ向きであったり、なかなか寄り合いに参加してくれない。色々な施策を出していただき、考えを出していただきありがたいが、実際に行動できる人がいない。人材を育成して、地域に来て一生懸命に活動してくれる人がいたらいつも思うが、そのように活動してくれる人を入れてもらうことはできないのだろうか。今、大鳥は3集落で実際に住んでいるのが松ヶ崎4世帯、寿岡14世帯でほとんどが高齢者のため自治会運営をする上での様々な役を1人で請け負っている現状。ひょっとしたら大鳥全部を一つにまとめた方が良いのではないか、そのような意見もある。ここで施策を出してもらい、基本は地域住民が動いて活動することだと思うが、現状は動ける人がいないという状況を何とかしないといけない。大事な発言であった。P6にもあるが、朝日地域から転居された人に対して、困っていることに協力して欲しいと呼びかけ、来てもらえる仕組みづくりがあれば良い。デジタルを活用して情報発信し、このような人達から手伝ってもらえる仕組みづくりを考える時期だと思っている。転居された方は朝日地域の大変さも分かっているが良い部分も分かっていると思うので、そのような方々へ連絡することで協力をお願いできないものかと思う。

ただ今の委員の発言に関連し、P7に「地域の実情に応じた集落対策の推進」とあるが、今お話しがあったように、どの集落も高齢化が進み、実際に動ける人が減少し、自治会長も1年や2年交代がほとんどで複数年会長を務める人は少ない。単年交代で自治会運営がなかなか大変だという声があり、コミセンとのつながりで色々な事業が展開されている中で、集落のトップが変わるため継続性がない等、様々な課題があると感じている。これまで、集落などで地域ビジョンを作っているが、どの位の集落が地域ビジョンを作ったのか。また、地域でビジョンを作るにあたり、地域にはどのように声掛けやアプローチをしているのか。困ったからどうしたらいいかということのを待っているのか、それとも積極的に計画づくりを行わないかと声掛けをしているのか。地域ビジョンの捉え方は私が言っていることと若干違いがあるかもしれないが、地域の計画があれば、自治会長が1年交代でも目指すところが明確になり継続性が出てくる。地域ビジョンを作ることは大事なことだと考えている。

総務企画課長

大網、田麦俣、大鳥で策定され、今年度は大泉地区で策定している。地域ビジョンそのものが、次の年から何かをやるためのというよりは、住民の意識づけが一番だと思っている。自らで自らのことを考えるきっかけづくりとして、人口シミュレーションを示すことで、地域として取り組むことを話し合いながらビジョンを作り、集落支援の活動を進めてきた。集落ビジョンを必ず作らないと地域づくりができないということではないが、ビジョンを策定した集落では、自治会長さんの他に策定委員の皆さんを選び、その委員から継続して活動に取り組んでいただくこともあった。自治会の活動だけでない取組が広がることを期待している。

先程の委員からのお話にあった、高齢化等の理由で自治会長のなり手がいないという課題について、自治会の役割やコミュニティの役割分担について今一度整理が必要な状況にある。どのようにするかの見通しは出来ていないが、市でもこのことを課題として捉えている。外部人材について委員からご意見を伺えればと思っている。

委員

若い世代でも、大鳥に住んでみたいという人がいる。先程、委員からお話があったが、タイミング良く家が空かないので、空き家が出たときに補助ができれば良いと思う。お試し住宅の山間部版・朝日版のようなもので、個人の所有物に対して補助を直接するというのは難しいと思うが、お試しで住みたい人がいた場合に空き家に住んでもらう。なおかつ助成が少しあり、持ち主にお金が入る形であれば固定資産税や電気代など固定費の負担分に対する多少の収入がある、もしくは雪下ろし費用が出せるなど。良い状態の家がなくなっていくので、紹介したいタイミングで住める家がある状況にするために、民間の力で何とか維持しながら家をつぶさないようにすることができれば、地域に子供も少し増えたりするのではないかな。

朝日地域は山と川が一番の魅力で、雪も魅力だと思う。集落の周りには私有林が多く、土地を離れた方々がたくさんいて、誰の所有かが分からなくなっているの、山林を可視化する仕組みがあれば良い。農地は所有者を把握されているが、山林も同じように把握できれば、子供たちが山菜やキノコを収穫して、奥の山まで行かなくとも村の前の山で十分に遊ぶことができる。人とのつながりもあると思うが、冬山にかんじきで動物の足跡を追う原体験こそが、この地域にいたいと思えるのではないかな。雪の中に大根を埋めているおばあちゃんの姿を見て、この地域のおばあちゃんはずごいなと思う子供がいるかどうか分からないが、古くからの生活の知恵を蓄えてきたもので、お試しで住んでみて、住みたければそのまま住める状況にして、山林や田畑が流動化できるような施策を打てると思うのではないかな。田畑・山林は個人所有なので、代執行のようなことはあまり良くないと思うが、山林や田畑を流動化しやすい環境をつくり、実際に流動化できる形にした方が良く思う。

雪下ろし費用の補助について、今は単身の非課税世帯の高齢者に限る形だったと思うが、例えば障害者の方がいる世帯とか、女性お一人で住まれている家とかに補助を拡充できないかと考えている。女性単身で住んでいるおばあちゃんがいるが、昔は男性が出稼ぎに行き、家を守る人は女性しかいない状況で培われた、心身ともにたくましい朝日村の素晴らしい方々であり、現在はなかなかそういう方がいない。女性一人で住んで雪下ろし作業がしんどいという話も聞こえてくるので、その場合に金銭的な補助で、例えば誰かを雇えるとか、手伝いを頼めるとか、住み心地を良くする一つになると思っている。

総務企画課長
委員

今のご意見を参考にさせていただきたい。

今回も本所から出席されているが、先程から朝日地域ならではの地理的条件からくる生活の不便さを補って欲しいという、例えば子育ての問題、高齢化率が非常に高いことでの新たな課題、市全体と朝日地域の取り組みは違って良いのではないかな、そのためにこの会議があるのではないかなと思う。高校生の通学費支援も、審議会時代に要望があり事業化されたと記憶している。子育てについても社会的条件が違うので、朝日地域独自の支援があってもいいのではないかな。私は以前から言っているが、保育園は良くなったのかもしれないが、朝日から働きに出る人は朝早く保育園に子供を預け、子供を迎えに行くときは遅くなる。朝早く子供が集まり遅くまで預かるとなると保育園で働く人も大変だ。交代制など工夫していただいて条件を満たすなど、朝日地域独自の政策があっても良いのではないかな。米を作っても中山間地

域と平場とは生産費用も違い、必ずしも補助というわけではないが、収益率が違うので、これらを踏まえた支援のあり方があっても良いのではないかと。

高齢化が進んで世帯が減少すると税外負担が大きくなる。道路補修や泥上げ等の労働力も含めて負担が大きくなってきた。中間人口も非常に少ないと思うので、日中は基本的には高齢者だけになり、災害が発生したときにどう対応するのか。補助・自助・互助などで生きていけないといけないのは当然だが、その体系の比重が崩れてきていると思う。鶴岡市一律でなくて各地域で違って良いので、それがこの会議ではないかと思う。

委員 産直あさひ・グーは組合員が高齢化し、大鳥・大泉にも集荷に行っていたが、高齢で出荷できなくなるケースが増えている。今は大泉で一人ぐらいしかいない。今後はデジタル化を進めるようだが、高齢者はスマホの使い方を覚えるのが難しいため、私たちが中央コミセンでスマホ教室を開いてもらいとても良かった。各自治会に出向いてもらい、出張でスマホの講習を行ってもらえたら、高齢になってもスマホでやり取りできる人が増え、出荷する人たちとも簡単に連絡がつけられるので、そのような面からもデジタル化を推進してもらいたい。

委員 先程、話題に出た交流事業に関連して、少し視点を変えて、1回目の懇談会の場でのちの実拾いに行く人がいなくなるといった話があった。例えば、農協では埼玉県浦和と田植えや稲刈体験として親子を対象に行っている。私は直接関わっておらず詳しくは分からないが、朝日は墨田区と交流を行っているので、親子でとちの実を拾いませんかとか、とち餅を一緒に作って食べませんか、というような声掛けをして交流することも良いのではと思う。ただ、今は山に行けばクマ、カモシカ、イノシシ、サルが出て、農作物だけでなく人間にも危害を加えるので危険な状況にある。先程の専門機関の協力を得て行う鳥獣被害対策を進めていただき、安心して交流事業に取り組んでもらえれば良いと思う。

会長 産直の課題や悩みについて先程発言いただいたが、施設運営について話し合いをされているようなので紹介していただきたい。

委員 産直は来年1年はやるということで、その後は経営の黒字化をしないとだめだということだが、そのように思っても組合員は高齢化が進み、今年のように暑い年はキノコの生育・品質も悪く、山菜までも悪く、困っている状態。施設は来年1年なのでみんなで一生懸命頑張ろうと言っている。

会長 産直については地域振興計画の中でも重要な位置づけをされているので、支援の在り方も相談されていると思う。どの程度の話し合いがされているか、お答えできる部分までで良いのでお話を聞きたい。

産業建設課長 産直あさひ・グーについては、施設の老朽化が進んでいる中で、組合が市の指定管理者として運営している。期間は3年としており、令和6年度で満了となる。それまで産直組合で営業を頑張るといってお話させていただいており、来年度以降については、今、組合員の方々とお話をさせていただいている状況にある。

会長 分かりました。それでは、防災の関わりでご意見をお願いしたい。

委員 先程から、人口減少を要因として心配なことが多いと言われているが、消防団についても実際のところ団員数がかかなり減少している。班の統合等を進めており、来年

度の4月からは大網・田麦俣が1班、上名川・下名川で1班、大針が2班から1班、さらに大泉・大鳥も班統合を検討中という状況。消防団員の負担が多いとの意見があり、今年度は報酬を上げ、行事等を若干減らしたがそれでも減っている。何が原因なのか分からないが、地域の方々の協力がなければ出来ない状況になっており、高齢化が要因の部分もある。やはり、朝日から転居する理由が何か原因を追求していかないと、最後まで同じことが続いてくと思う。地域の魅力的な所、だめな所をはっきり出して、それに対して取り組む必要があると思っている。うちの子も高校生だが、今のところ朝日に残りたいと言っている。上の子たちは皆残っていて、一番上の子は看護師をしているが、冬は夜間帰ってきてても雪があつて入れない。夜中に除雪しようすると24時間体制になるので、ある程度、どこまで可能かということも探っていく必要があると思う。一つずつ問題点を出して解決しながらいかないと、最後まで同じような状況が続くと思う。実際にやってみて失敗することもあるかもしれないが、問題点の解決に向けて少しずつ進める必要があると思う。

その他 なし

5. その他

総務企画課長

他に皆さまから何かございますか。

なければ閉会のご挨拶を副会長にお願いしたいと思います。

副会長

皆様お疲れ様でした。これを持ちまして、朝日地域振興懇談会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

(終了 20時06分)